

会 議 録

会 議 名	平成28年度第1回小金井市児童館運営審議会		
事務局(担当課)	児童青少年課		
開 催 日 時	平成28年7月12日(火) 午前10時～正午		
開 催 場 所	小金井市本町児童館		
出席者	委 員	橋本会長、吉田委員、関委員、新井委員、布目委員、山中委員、岩重委員、山田委員、中川委員	
	その他	欠席(松田委員)	
	事務局	大澤児童青少年担当部長、伏見児童青少年課長、田中係長、森主査、大嶋主査、山田主任、中村主事、東児童館(マネージャー木下職員)	
傍聴の可否	可	傍聴者数	名
会 議 次 第	1 開会 2 委員の交代について 3 本町児童館施設見学 4 議題 (1) 児童館事業について (2) その他 5 閉会		
会 議 内 容	2 小・中学校長の異動に伴う委員の交代(浦川先生から松田先生、佐藤先生から山中先生への交代)、事務局の児童青少年担当部長の着任について報告(児童青少年課長) 3 本町児童館施設見学(15分程度) 4 議題 (1) 児童館事業について ① 「この1年のあゆみ」(平成27年度暫定版)を元に各館から平成27年度の事業状況を簡単に報告。なお、完成版は8月末までに郵送予定。 ② 小金井市児童館設立50周年記念四館合同行事「じどうかんの50歳を祝おう!児童館フェスティバル2016」を11月27日に小金井宮地楽器ホールの1階小ホールとマルチパーパススペースで行う旨を報告。 (2) その他 (以下、主な発言の要旨) ○ 中・高校生世代に対する事業で、悩みを相談する子もいたので、支援が必要と思われる子どもへの対応には特段、配慮とあるが、所属する学校に連絡を入れたりすることもあるのか。(山中委員) → 生活指導や担任、SWの先生と連携をとって対応している。(大嶋主査) ○ 貫井南児童館の子ども不要な服を常時置くリサイクルボックスの設置は、服の状態は気にせず、不要なものを置いていく形なのか。(中川委員) → 利用者懇談会で、特に保護者から意見が出たため設置した。職員が男児女児、年齢別に分けて確認している。今のところうまく回っている。(山田主任) ○ 小学生に対する事業で、親が児童館に来ることが減ってきている理由とし		

て子どもが携帯電話を持つようになったことがあり、自分の子育て時代とは随分変わってきた。夕方、迎えに行き職員から子どもの様子を聞いたり、他の子と一緒に帰ってあげていたことを思い出した。(吉田委員)

- 高校生や大学生で手伝いに来る方は、地域の大人や保護者と連携があるのか。または児童館の職員だけが接点なのか。地域に高校生や大学生の手伝いの認知は進んでいるか。(橋本会長)

→ 高校生の保護者とは職員が面識があるため、助かっているという話ができるが、それ以外の地域の方に活動をPRできているか、というと難しい。(山田主任)

- 4年生以上の女子が自由来館に多数参加したとあるが、児童館全体として一般的には男子が多いのか。(山田委員)

→ 自由来館は男子が多く、行事参加は女子が多い。高学年を中心に男子は自由に遊んでいたほうが好きな子が多いが、女子は趣味、嗜好の関係から手芸や料理の行事に集まりやすい。(森主査)

- 児童館を中・高校生にもボランティアだけでなく遊びに行く場所、居場所として周知させる工夫がもっとあってもよいのではないか。(岩重委員)

→ 遊びの一環ではあるが、同時に役割を持って参加できることは中・高校生にはうれしいことであるだろうから、そのような配慮を継続してほしい。(橋本会長・新井委員・岩重委員)

- 4館共通で不登校という言葉が多い。学校には行けないが児童館には行けるといふ子どもが増えているのか。学校に行けない子のフォローも重要になっていくのではないか。(中川委員)

→ 難しいのは、学校に連絡することがいいのか悪いのか、ケース・バイ・ケースということ。結局は、児童館職員の専門的な判断に任される形で学校や保護者や地域との連絡がなされている。あまり形式的に整えて連絡体制をきちんとしようとする、逆に職員が縛られてしまう気もする。いい知恵があれば出し合いたい。(橋本会長)

→ 不登校の子どもたちとの関係は、児童館が開館して以降、50年間を通じてあった。不登校になった子が児童館に来るかどうかは不明であるし、市内の学校で何人不登校がいるのかというデータを児童館は把握していない。なぜ不登校なのか、学校の先生たちと情報交換する場合もあるが、児童館は基本的に家庭との関係なので保護者との連絡を行う。ただ、いろいろ難しいケース、日中、保護者がいないこともある。(森主査)

→ 学校でも不登校の子どもたちの状況確認は常にしている。児童館に行っているとわかるだけでも学校としては子どもたちの様子が見えてくる。無理して学校に来させようとか、今はそういう時代ではなく、子どもたちの居場所として児童館もあり、もくせい教室もある。いろいろな場所があっている。(山中委員)

→ 児童館が、中学生、高校生、さらには元OBの大学生まで、地域の子どもの受け皿、居場所として、年代を問わず誰でも来ていいという場所と

	<p>して認識されてきたということは、この50年間の成果。親と子、先生と生徒という縦の目線以外の、斜めの目線が大事ではないか。(布目委員・橋本会長)</p> <p>→ 児童館の小学生に対する受け皿の部分を強化していくことが、中・高校生以上になった時につながるのではないか。児童館に子どもが行くのは、その児童館の職員との関係ではないか。(吉田委員)</p> <p>○ 本町児童館について、昨年度は、利用者がほんちょう学童保育所の影響を受けたが、今年度は本町小学校の一部を学童保育所が借りられたので、児童館も使いやすくなった。児童館利用者としては、来年度も今年と同じと考えていて良いのか。または現在、努力中ということではどうか。(橋本会長・中川委員・関委員・山田委員)</p> <p>→ ほんちょう学童については努力中だが、現時点でお答えできるものがない。ご理解いただきたい。(伏見課長)</p> <p>○ 次回の日程 11月開催予定</p>
事務局 (伏見)	<p>それでは、皆さんおそろいですので、ただいまより28年度第1回小金井市児童館運営審議会を開催いたします。</p> <p>議題に先立ちまして、本年4月1日の異動で、小学校長会から選出委員でありました浦川先生から松田先生に、それから、中学校長会からの選出委員が佐藤先生から山中先生に、それぞれ任期の途中ではございますが、交代されましたので、ご報告申し上げます。なお、松田先生からは、公務により本日欠席の旨、ご連絡をいただいております。</p> <p>後ほど委員をご紹介させていただきたいと思っております。</p> <p>また、事務局の体制でございますが、本年4月より児童青少年担当部長として大澤が着任しております。一言ご挨拶させていただきます。</p>
大澤児童青少年担当部長	<p>改めまして、皆さん、おはようございます。</p> <p>子ども家庭部長が子育て支援、保育、児童青少年の3課を見ていたところでございますが、本年4月1日付けの人事異動で、子ども家庭部長はそのまま子育て支援と保育課を担当し、私が、児童青少年課の学童と児童館を所管する担当部長ということで拝命しました。何分、子どもとの関わりの部署というのは初めてでございますけれども、皆様方と協力させていただきながら運営させていただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (伏見)	<p>それでは、以降の議事運営につきましては、会長、よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>皆様、おはようございます。お忙しいところ、また、暑い中をお越しくさいます。ありがとうございます。</p> <p>ただいまから第1回小金井市児童館運営審議会を開始します。</p> <p>次第に沿って進めていきたいと思っております。最初は、今日、大澤部長、伏見課長からご案内がありましたように、委員の異動がありましたので、山中先生から自己紹介をしていただき、他の委員の方にもお名前と肩書きだけおっしゃっていただきたいと思っております。</p>
山中委員	<p>おはようございます。小金井第二中学校校長の山中です。4月に着任いたしま</p>

	<p>した。</p> <p>私、前任は立川におりまして、小学校の校長をして、今度、中学にまた戻ってきたという形です。前任校でも同じような形をやっていたのですけれども、児童館には、中学生が児童館で騒いでいる、暴れている、だから何とかしてくれということで、止めに行ったりだとか、いうことでした。今後は児童館でも、小学生も中学生も共存してできるようなことが必要なのかなと思っていますので、そういうことで何かできればと思っています。よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>関さんから順番に、お名前とお仕事を。</p>
関委員	<p>小金井市子ども会育成連合会の書記をしています関と申します。よろしく願いいたします。</p>
布目委員	<p>民生児童委員から参りました、子育て支援部会長をしております布目でございます。よろしく願いいたします。</p>
中川委員	<p>一般公募から参加しています中川久美子です。よろしく願いいたします。</p>
山田委員	<p>一般公募の山田久美子です。よろしく願いいたします。</p>
岩重委員	<p>同じく、一般公募の岩重深雪です。よろしく願いいたします。</p>
吉田委員	<p>緑児童館でボランティアスタッフをさせていただいています吉田です。よろしく願いいたします。</p>
新井委員	<p>民生児童委員会の北部の副会長をしております新井と申します。本審議会では職務代理ということで重責を担わせていただいて、それから、私の孫が今、二中の3年生です。よろしく願いいたします。</p>
橋本会長	<p>会長をさせていただいております橋本と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>では、今日、最初の議題は施設見学ということですが、その前に、今回、今年度の第1回目ですので、年3回だけの会議ではありますけれども、年度末に向けての目標といいますか、申し上げたいと思います。</p> <p>この審議会は、今期は大変地味な形で、特に諮問があるわけでもない、答申を出さなきゃいけないわけでもないということなので、華やかな目標というものはありません。</p> <p>ただ、私が委員にならせていただいてから5年目になりまして、新井職務代理も5年目ということで、あとは関委員が3年目になりますかね、2期目になられて、布目さんも2期目、あの方々は1期目です。そういう中で大事にしていることは、議事録に私たちの質疑が載るということです。事務局の方も大変いい説明をしてくださいます。その議事録を市のホームページで見いただきますと、児童館の施策、児童館の運営、質が年々向上しているということを酌み取っていただけたらと思います。</p> <p>なかなか児童館のよさ、質というものをあらわすのは難しいものですから、議事録で着々と私たちの質疑応答を記録することによって、何か、いざというときに小金井市の児童館はこれだけの働きをしているということを示せるよう取り組むことが、とりあえず今年度は大事なかなと思っています。また、早晚、私も会長として任期を終えて交代することになりますが、また次の方に引き継いでい</p>

	<p>ただければ、ありがたいなと思っています。</p> <p>もう少し先には、東児童館が今、民間委託という形でやっていただいています。児童館の委託ということも出てくるかもしれませんが、また、絶えず児童館の数が足りているかどうかということも問題にされております。いろいろな問題が来るかと思いますが、今期におきましては、先ほど申しましたように、着実に審議を重ねていくということが目的となっております。</p> <p>なお、この審議は録音されておりますので、テープ起こしをしてくださる方がなるべく正確に、スムーズに仕事をしていただけるようにということで、なるべく皆さんも声を出して、言葉にして言っていだきたいと思っておりますし、また、賛成のことがあったら「賛成」というふうにつぶやいていただければ、それも議事録に載ります。時々、言わずもがなで、「新井です」とかいうふうにご自分の名前をおっしゃるのは、これは入力してくださる方にわかりやすいように、誰が言ったか、わかりやすいようにということで、そういうふうに発言していただくのもありがたいなと思っております。</p> <p>ちょっと細かいことまで申し上げまして時間をとりましたが、今年度の目当てということでお話をさせていただきました。</p> <p>それでは、次第の最初にありますように、本町児童館施設見学ということでご案内をいただいております。</p> <p>大嶋先生、お願いします。</p>
事務局（大嶋）	本町児童館、大嶋です。おはようございます。ご案内いたします。
	(本町児童館施設見学 15分)
橋本会長	それでは会議を再開します。何か本町児童館の施設について、追加でご質問とか、ありますか。
岩重委員	この会場は、本来は学童のスペースですか。
事務局（大嶋）	はい。本日の会場は学童をお借りしています。
中川委員	今、見てきて、1階の遊戯室とかは浮き床とか、すごく工夫されていて、子どもたちにはとてもいいなと思ったんですけど、逆に、2階のほうを最初に見せていただいたので、1階に比べて古いイメージがしました。1階の雰囲気とちょっと違うな、というのを感じてしまっ。
橋本会長	2階が古いですか。
中川委員	はい。何かそういうイメージをすごい今、持ってしまっ。2階のほうに乳幼児優先のスペースとかありましたので、そのあたり、乳幼児がいらっしやるのに、何か地味というか、ちょっと暗い感じがして。壁の雰囲気だとかも古い感じがすごく目立ったんですけど、もうちょっとかわいくできないものかなと思っ。
橋本会長	なるほど。ご意見ですね。
中川委員	はい。
橋本会長	わかりました。ほかに何かありますか。 それでは大嶋先生、どうもありがとうございました。 では、次第に従い議題に入らせていただきます。

	<p>あらかじめ、事務局のほうから資料を送っていただいておりますが、よろしいでしょうか。それに従いまして、前年度、27年度の児童館のあゆみを振り返りたいと思います。この資料のご説明をお願いできますでしょうか。</p>
事務局（田中）	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。本日、机上にお配りしたものでございますが、本日の次第のみでございます。それと、「花みずき」を参考資料としてお配りさせていただきます。</p> <p>なお、事前資料といたしまして、「この1年のあゆみ」（平成27年度暫定版）、児童館運営審議会委員名簿を郵送にてお送りさせていただきます。「この1年のあゆみ」につきましては、本日の会議内でのご意見等も参考に、よりわかりやすいよう8月中に作成いたしまして、完成したものを郵送させていただく予定です。資料にご不足等ございましたらお申しつけください。以上でございます。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、議題に戻りまして、児童館事業についてですが、「この1年のあゆみ」（暫定版）を見ていただきまして皆様のご意見をいただきます。順番に内容毎に事務局のほうからご説明をいただきたいと思いますが、特に今年度新しくなった部分、去年と変わった部分などを目立つように、何番、何番が変わっているというふうに番号を指示して、変わったところを言っていただければ聞きやすいかなと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>では、最初、全体のこと、4館共通の部分ですね。では、事務局、森先生。</p>
事務局（森）	<p>お手元の資料の1ページ、平成27年度小金井市児童館のこの1年をあけていただければと思います。</p> <p>この中に書かれておりますことはさまざまですが、その中で一つ、PRになってしまうのですが、ご周知いただきたいことがあります。小金井市の児童館は昭和41年に、今、皆様がおられます本町児童館が設立されたことから事業が始まっております。建物自体は途中で建てかえをしておりますが、事業開始から50年という節目を今年度迎えることになりました。</p> <p>そこで、今年度は小金井市の児童館として50周年を祝うこととし、毎年行なってきた「じどうかんフェスティバル」を、小金井市児童館設立50周年記念四館合同行事「じどうかんの50歳を祝おう！児童館フェスティバル2016」を11月に行うことを決定しました。</p> <p>内容としては、これまでのじどうかんフェスティバル同様に、子どもたちが舞台上で歌ったり踊ったり、各児童館で運営する遊びや展示のブースを作る予定ですが、記念行事ということで、最初に記念式典を行なう予定です。</p> <p>昨年度3月の第三回児童館運営審議会でもこの話はしていると思うのですが、会場は、暫定的に昨年同様、小金井第三小学校の体育館をお借りすることになっておりました。当時は、まだ予算要求の時点だったので、はっきりご報告できなかったのですが、我々としては記念行事なので、「小金井 宮地楽器ホール」での実施を目指していました。このことについては最近になって決定したので、改めて報告いたしますが、11月27日の日曜日に「小金井 宮地楽器ホールの小</p>

	<p>ホールと1階マルチパーパスを使用して行ないます。</p> <p>第4日曜日で、小学校、中学校が学校行事もなく、みんな集まれるというところで日程が決まったのですが、宮地楽器ホールは子どもたち専用の施設ではありませんから、これまでとやり方は若干変わると思っています。食べ物の提供ができないとか、制約もあるのですが、それでも児童館らしい、楽しいお祭りになるようにしたいと思います。</p> <p>この事業は、これまでの「じどうかんフェスティバル」同様に、平成21年3月に市が策定しました「小金井市子どもの権利に関する条例」の中にあります第13条、育ち学ぶ施設での子どもの権利の保障という項目に則った事業だということをつけ加えさせていただきます。</p> <p>市の児童館は直営館3館に業務委託館1館ですが、合同事業を含め、これまでどおり協力連携しながら事業を行っていきます。</p> <p>最後に、昨年度、児童青少年課の担当の事業としてプレーパーク事業を行っております。これについては、もし、詳細についてお求めがありましたら田中のほうから説明させていただきます。以上です。</p>
橋本会長	では、プレーパークの結果を少しご説明いただいていいですか。
事務局（田中）	プレーパーク、27年度の事業を簡単に報告させていただきます。学芸大学構内「いけとおがわ」でございますが10ヶ月間で130回、武蔵野公園「くじら山」が同じく35回、開催させていただきました。利用者数は総計で1万2,033人でした。主な利用者は、乳幼児の親子と小学生世代でございます。簡単ではございますが、以上です。
橋本会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆さん、何かご質問がありましたらお願いします。なければ、後で結構ですので、各館のご説明をいただきたいと思っております。森先生、田中さん、ありがとうございました。</p> <p>では、2ページに参りまして、本町児童館のこの1年ということで、大嶋先生、お願いいたします。</p>
事務局（大嶋）	<p>本町児童館、大嶋です。</p> <p>本町児童館のこの1年ということでご報告させていただきます。</p> <p>昨年度まで本町児童館が実施していて、今年度から学童保育所の事業となった学童保育所子育てひろば「たけとんぼ」ですが、学童保育所に事業を移行した関係で、児童館の乳幼児の親子の数に「たけとんぼ」の数字が含まれなくなったため、統計上の乳幼児数は減少することになりました。</p> <p>また、26年は6年生が多く遊びに来ていたんですけども、中学生になって来なくなったので、小学6年生の数は少し減りました。ほかの学年はほぼ増えています。</p> <p>乳幼児と保護者に対する事業のところ、月曜日は子ども家庭支援センターが休館の分、学童ひろばですとか、児童館での子育てひろばに来てくださる乳幼児が多かったんですけども、さきほどの説明のとおり、学童ひろばに行く乳幼児がいたため、児童館の月曜日のスペースについては、若干余裕ができて、ゆった</p>

り遊べるようになりました。混雑が緩和された点はよかったと思います。

父親に子育てひろばに参加してもらおう事業ということで、「お父さんとあそぼう」を、昨年度は交流会中心のプログラムで年10回実施しまして、なかなか定着が難しかったんですが、年度末に向かいまして五、六組と、毎回お父さんたちで来てくれる方が増えてきました。今年度についてはリズム遊びを入れまして、10組ほど定着して、父親とお子さんが来てくれるようになっております。また、お母さんも付き添いで来ていただいているので、お父さんと子どもが遊んでいる間、お母さん同士で話したり、ほかの場所でくつろいだりという感じです。父親同士の会話もあり、お父さんも交流できるような時間ができたので、よかったと思っています。

幼児グループでは、出産で途中からお休みに入る方も多かったんですけども、3月のお別れ会までに何とか戻ってこられました。最後まで来てくれる方をつないでいくということの大切さがすごく感じられた昨年でありました。

幼児対象行事で「わんぱくキッズあつまれ」がありますが、昨年度は、出演するウクレレサークルの幼稚園児のお母様方を対象に、一緒に行事を企画してもらいました。今年度はリコーダーのグループのお母様方も参加してくださるということで、明日も「わんぱくキッズあつまれ」のコンサートとおやつ作りの行事をやることになっています。先ほど施設見学で見ていただいた乳幼児優先室ですが、そこで一部子どもを遊ばせて、交代で様子を見ながら北側の部屋でお母さんたちが練習をする、子どもを遊ばせながら練習できるという形で有効に部屋を使っていたいただきました。

小学生に対する事業の「みんなで球技大会」ですが、昨年はリクエスト制にして好きな球技ということでやっています、バスケットボール、そのときの子どもたちの一番気に入るような球技をやりました。今年もそういった形で意見を聞いて球技を決め、いろいろな球技に挑戦しているところです。

「併設の学童保育所の子どもが増えた影響で、2階の図書室を共有して遊びましたが、その分、児童館の1階は混雑状態になりました」という部分ですが、28年度については、暫定的に本町小学校のお部屋をお借りして学童保育の子どもが30人はそちらで保育されるようになり、本町児童館二階の学童保育所のお部屋は55人ぐらいの収容になったので、27年度中のように子どもが多過ぎる状況ではなくなりました。児童館二階の図書室もそれに従ってゆっくり遊べるような状態になったので、一階の廊下などにもゆとりができるようになり、よかったと思っています。

また、土曜日には、平日は児童館で遊べない学童保育所の子どもたち遊びに来ているので、児童館の登録児童が増えてきております。

「じどうかんフェスティバル」については、昨年、ダンススクールを実施しましたところ、1年生の子どもたちだけのメンバーで4人参加して発表ができたので、今年も10月、11月にダンススクールを予定しています。また子どもたちと一緒に楽しいステージをつくれるように、今、準備をしているところです。

中・高校生世代に対する事業は、遊びに来ながら、友達とか家庭のことで職員

	<p>に雑談をしてくる生徒もいまして、中には不登校ですとか、家庭の問題の悩みもあるので、その都度、いろいろ相談に乗り話をしていました。そんな中で27年度は2人、高校に合格したという喜びの報告をしてくれまして、すごくよかったです。と思っております。</p> <p>近隣の都立多摩科学技術高校のボランティア部が去年ボランティアで夏期クラブに11人参加してくれました。人数の関係でなかなか大勢受け入れられないのですが、近隣の高校等も協力をいただきながら、他地域から来る高校生とも交流をして、地元の中・高校生とも遊べるような状況をつくっていきたいと思います。</p> <p>地域や関係機関との連携した取り組みでは、東京学芸大学が近くにあるので、いろいろなサークルの学生が来てくれまして、ワークスクールや、地域オリエンテーリング、ナイトハイクなどの行事に協力してくれて、学生もいろいろ企画を持ってきてくれて、職員と話し合いながら行事をつくっていくような環境があります。歳の近いお兄さん、お姉さんが協力してくれて、子どもたちもすごく喜んでいて、今年度もそれに力を入れています。地域のいろいろな方にもご協力いただいておりますが、今年も昨年と同様にやっております。</p> <p>以上になります。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。今、とりあえずお聞きしたいことがあったら、どうぞおっしゃってください。何かありますか。中川さん、お願いします。</p>
中川委員	<p>中川です。「わんぱくキッズあつまれ」のところで、お母様たちの有志のウクレレバンドとか、いろいろ大人のサークルがあるとお聞きしたんですけど、その方たちは、ご自身の子どもたちが児童館を卒業しても、そういうサークル活動を続けられているのでしょうか。</p>
橋本会長	<p>お願いします。大嶋先生、どうぞ。</p>
事務局（大嶋）	<p>OBの方も、指導者として教えに来てくれたり、一緒にコンサートに出てくれたり、ご協力いただいております。お母様方のサークルは続いているようです。</p>
橋本会長	<p>山田さん、お願いします。</p>
山田委員	<p>山田です。学童ひろば「たけとんぼ」というのは、どこですか。</p>
事務局（大嶋）	<p>第二小学校に隣接しているたけとんぼ学童保育所です。</p>
山田委員	<p>ほんちょう学童保育所では学童ひろばはやってない。</p>
事務局（大嶋）	<p>ここは本町児童館の乳幼児ひろばが元々あるので、学童ひろばはやっておりません。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。岩重さん、お願いします。</p>
岩重委員	<p>岩重です。幼児グループで「みんなで当番を繋げるように」とあるんですけど、幼児グループに参加したことがないので、わからないんですが、当番って結構ハードルが高いかなと思うんですが、どのような形で、どのような活動をしているのか、教えてください。</p>
橋本会長	<p>お願いします。</p>
事務局（大嶋）	<p>例えば、今年は30組から40組の親子が来ていますが、大体8人から10人ぐらいの班を3～4個作りまして、3回くらいごとに当番の役割をローテーシ</p>

	<p>ョンしています。</p> <p>主に、子どもと遊ぶ保育の当番、誕生会の手作りプレゼントや食べ物を準備するサポート当番、というのがありまして、交代で回しながら活動や行事をやっています。1班で大体8人から10人いるので、1人に過大な負担がかかることはなく、みんなでいろいろな分担をしながら当番をしているので、すごく仲よくなれて、楽しく活動しているように覗えます。また、幼稚園とか小学校へ行っても、その輪が続いているので安心という声も聞きます。それほど負担にならないようには配慮しています。</p>
岩重委員	負担というよりは、つながりをつくっていくという方向に。
事務局（大嶋）	そうですね、はい。
岩重委員	わかりました。ありがとうございます。
橋本会長	大丈夫ですか。
岩重委員	はい。
橋本会長	ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。どうぞ。
山中委員	山中です。中・高校生世代に対する事業という中で、「悩みを相談する子もいたのでも、支援が必要と思われる子どもへの対応には特段、気を配りました」と書いてあるんですけども、例えば、そういう話を聞いたときに、これは、その所属する学校のほうに連絡を入れたりすることもあるんですか。
橋本会長	どうぞ。
事務局（大嶋）	生活指導の先生や担任の先生に連絡をとらせていただいて、解決していきます。また、スクールワーカーの先生にも連携をとって、本町児童館の場合には主に本町小や一中のお子さんが多いんですけども、連携をとって進めさせていただいています。
山中委員	ありがとうございます。
橋本会長	ありがとうございます。あとはよろしいでしょうか。後で追加の質問はできますので、よろしく願います。大嶋先生、ありがとうございました。次は東児童館にご説明いただきます。願います。
事務局（木下）	<p>東児童館の木下です。よろしく願いいたします。</p> <p>4ページと5ページに東児童館の1年の報告が載っております。また、26年度、27年度と人数比を比べました表が41ページに載っています。乳幼児、小学生、中学生、高校生、そして大人というところで、多少の増減はあるものの、ほぼ例年のとおり事業が繰り広げられてきていると認識しております。</p> <p>25年度から、25、26、27年度と3年にわたって事業が3つほど進んでおります。1つは「おとうさんもいっしょ」、それから3歳、4歳、5歳、6歳を対象の「おいでよ！3・4・5・6（サシゴロウ）」、それから「とびだせ！中高生」です。「おとうさんもいっしょ」は私も担当させていただいているんですけど、なかなかお父さんというのは来づらい。最初に手遊びを僕が幾つか用意しながら、お父さんのぎこちないやり方でやっているんですけど、お父さんも何かすごく協力してくださって、だんだん慣れてきたのと、居心地がいいということだと思っておりますけど、延べ約300人ほど、1回当たり12組ぐらいの親子が来て</p>

	<p>くださっています。今年もだんだんお父さんの数が増えているような印象を持っております。</p> <p>幼稚園世代向けの3歳、4歳、5歳、6歳の「おいでよ！3・4・5・6」ですが、これも後ろのほうのページに載っていますように、約560人で、1回当たり13～14組の親子さんが来てくださっています。</p> <p>先ほど、施設見学の際に本町児童館1階の遊戯室で見学していただいたのと同様に、この時期、東児童館でも、プールが用意できたり、そういうことで小さなお子さんとお母さんは楽しみにしていただいているんだと思うんですが、断トツにこの夏が一番多い人数で、あと、春休みのところも幼稚園が休みのときにできるだけ対応をしています。この日にちの検討は今年もしているんですけど、今後幼稚園にいろいろな様子を伺いながら、なるべくすれ違いのないように、受けとめられるように対応していかなければと思っております。</p> <p>最後に、5ページの3番目のところにあります中・高生世代の事業ですけれども、前回の児童館運営審議会でも、ちらっとお話しさせていただきましたが、2月に東中の体育館をお借りしました。延べ36人ほどの中高・大学生が来まして、寒い冬の中、スポーツ大会を繰り広げました。最後に東児童館へ戻ってたこ焼きをみんなで作りながら懇親会をやって、夕方6時に解散したのですが、東中学校の在学生在が一番多いんですけども、学校の授業ではない、いわゆる自分たちの企画した内容で中学校の体育館を使わせていただいたということに、すごく何か充実感といいますか、喜びを感じて、ぜひ次年度もやりたいと話していました。また、南中からも何人か来ていただきましたので、その交流も深められたと思っておりますし、中学生、高校生も、ほかの児童館に出かけていっていろいろな交流を深めることができればいいかなと思っております。このあたりも新年度に向けていろいろ模索をしていければいいかなと思っております、皆様方のお知恵もいただきたいと思っております。簡単ですが、以上です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>何かご質問ありましたら、お願いします。どうぞ。</p>
中川委員	<p>中川です。ちょっと目にとまったのが、小学生のところで「夏期クラブで誕生したゆるキャラ」というのがあるんですけど、これというのは、子どもたちが子どもたち同士で話をして、こういうキャラクターを…。</p>
事務局（木下）	<p>大体、そうです。アドバイスはするんですけど、なるべく子どもたちが考えて、子どもたちのほうがかえって知っていたりするんですよね。ですから、そこで人気のあるものを集めたりしながら去年はやりました。</p>
中川委員	<p>何かシンボルマークという形で、夏期クラブの何君だよ、みたいな。</p>
事務局（木下）	<p>はい、そうです。</p>
中川委員	<p>では、それは例年使われる……。</p>
事務局（木下）	<p>いえ、それは去年で。今年はまた全然違うテーマで今、夏期クラブを企画していて、今年はA3の大きさをカルタをつくり、それから箸と箸袋をつくろうと。毎年毎年、そうやってグループ活動と個人の工作を、テーマで展開できるような企画にしています。</p>

中川委員	ありがとうございます。
橋本会長	ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。私のほうからもお伺いしたいのですが、中・高校生に対する事業で、「とびだせ！中高生」2回ということですが、これは回数に限りがあるから2回なのですか、ということと、それからもう一つ、スポーツ大会を子どもたちが企画してやられたということですが、スポーツ大会のようなものは初めてですよね。木下先生。
事務局（木下）	木下です。中学校の年間行事もなかなか忙しいということと、それから、我々児童館も、ご存じのように、0歳から18歳まで対応をいろいろしていますので、なかなか日程的にとれないというのが問題だろうと思っています。 それからもう1点、いただきましたスポーツ大会は、本当に初めてこの時期に行いました。参加から参画ということで、だんだん彼らが自分たちで企画をして、そしてやっていくという場面を、今のお話のように増やしていけることができればいいかなと思っています。そこは継続で前向きに検討していきたいと思っています。
橋本会長	ありがとうございました。 ほかに何かありますでしょうか。よろしいですか。 では、木下先生、どうもありがとうございました。 また何かありましたら、後ほどでも結構です。 では続いて、貫井南児童館の山田先生。
事務局（山田）	貫井南児童館の山田です。 貫井南児童館のこの一年、お読みいただいているかと思しますので、補足のご説明をさせていただきます。 貫井南児童館には、坂下の地域の方たちの利用が多くあります。小学校でいいますと第四小学校、前原小学校、南小学校のエリアの0歳から18歳までのお子さんと保護者の方が利用している場所です。 子育てひろばは、近隣の学童保育所、さわらび、まえはら、今年からですけれども、みなみの3学童保育所で、週3回、学童ひろば事業が始まった関係で、乳幼児親子の行き場所が増えました。その結果として貫井南児童館では利用人数が減りました。 幼児グループについては2歳児、幼稚園でいうところの年少の1個手前のお子さんと保護者の方たちの交流ということで企画しているのですが、近隣の幼稚園が2歳児を対象とした事業、プレ幼稚園というのを積極的にやられている関係で、そちらに行くとか、習い事とか、もう2歳ぐらいになってくるといろいろなところに行けたりするので、そういうところに行く子も多くて、こちらもかなり減っています。ほんとうに今年度もかなり減っています。 ただ、幼児グループというのが1年間で20～30人いますが、その方たちに3月ぐらいに職員の方でお声がけをして、幼稚園児世代の何か行事に取り組む自主グループをつくってこないかということで毎年毎年お声がけをしまして、去年もお菓子づくりと工作遊びということで2つのグループで、大体7～8人ずつぐらいの母親のグループで、準備したり、企画したり、職員がアドバイザー

ザ一的にかかわり、いろいろお母さん方で知恵を凝らした行事を手がけていただきました。毎年毎年やっています。幼児グループとしては減っていますが、そういうお母さんたちの活動は続けていっています。

次に、小学生の事業です。小学生に対する事業は、今に始まったことではないのですが、友だちと約束をしないで一人で来る子が増えてきていまして、携帯ゲームとかを持ってくる子も多かったんですけど、最近は、ペイブレードですか、カードゲームとか、わりと相手があって遊ぶような遊具を持って遊びに来る子も増えてきています。

また、7ページですが、定時制高校に行っている男の子がいつも昼間から遊びに来てくれています。一人で来た子をまとめて、ドロケイをしてくれたりとか、職員が最初はいろいろ、そういうばらばらに来た子をまとめて集団遊びをしていたんですけど、そういうのをきちんと見ていてくれて、今はその男の子が「やるぞ」とかいう形で声をかけてくれて、集団遊びをしてくれるようになっています。とても助かっています。

去年は不登校の子が2人来ていまして、親御さんともよく話をして進めているんですけども、今年は1人来ている子がいます。親御さんとも定期的に面談させていただいて、児童館ですので、こきんちゃんのボランティアカードを持っていたりするので、なるべく児童館でボランティアができるようにということで、こちらのほうでボランティアの内容を用意したりしています。その子が児童館を選んで来てくれているので、なるべく支えになるように、親御さんもいろいろな関係機関と連携がとれているようなので、こちらとしてもサポートをしていきたいと思っています。

中・高校生に対する事業ですが、去年は、元気な中学校1年生の男の子が多く、夜間開館の事業のときに来てくれています。いろいろなことがあったんですけど、児童館の中だけでいろいろ済むことだったので、親御さんとも連絡をとりながら指導していきました。来てくれた子たちは大体、顔もわかって、小学校から来ている子が多かったのも、理解のある保護者の方がとても多かったです。児童館で怒られたことを親に言わないと児童館から電話が親に来ると思っているらしくて、児童館と親御さんといろいろ連携をとりながら指導していきました。今年になって落ちついてきて、外で会うとちゃんと挨拶もしてくれますし、そういう意味で、彼らも成長しているなと思っています。

貫井南児童館は唯一、防音スタジオがありまして、バンドの練習ができたりする児童館ですけども、ちょっと去年あたりから利用が減ってきました。春休みとか、この夏にかけて、地元の第二中学校や南中学校の卒業生の、今はもう高校生になった子たちがちょこちょこ利用してくれてはいるんですけども、まだちょっと宣伝が足りないので、促していきたいと思っています。毎年、夏休みに中学生のボランティアさんが結構いたんですけど、ちょっとこのところ、中学校は部活や勉強でとても忙しいというのを伺っています。根気よく今年も誘っていききたいと思っています。

4番目、地域との関連した取り組みですけども、中・高校生がボランティア

	で少ない一方、大学生がちょこちょこ顔を出してくれて、子どもたちと遊んでくれたり、時にはそこで手品を見せてくれたりとか、いろいろ手伝ってくれています。そういった大学生が来てくれることはあまり児童館としてはなかったんですけども、ボランティアとして関係を作っていきたいと思っています。以上です。
橋本会長	ありがとうございました。何かご質問がある方はどうぞ。何かありますでしょうか。中川さん。
中川委員	中川です。4番のところで、子どもの不要な服を常時置くりサイクルボックスを設置しましたと書いてあるんですけど、これに関しては、本当に状態とかそういうのは気にせず、もう要らないわ、といったものを持って行って、置いておくという形なんですか。
事務局（山田）	山田です。利用者懇談会で、特に、お子さんの保護者の方からこういう意見が出まして、お母さんたちと一緒に作りました。持ってきた洋服はそのボックスに入れるようになっているんですけど、1回ちょっと職員がお預かりして、職員のほうで女の子用と男の子用と年齢別にちょっと分けたりしています。うまく今のところ回っているような状況です。
橋本会長	ありがとうございます。ほか、何かありますでしょうか。山田さん。
山田委員	山田です。地域と連帯した、という部分ですけど、この間、うちの息子が帰りにやさしくしていたらしくて、児童館からお電話をいただいて、でも、見てもらっていてよかったな、と。そういう帰ってくる時って親は見られないので、何もしないで帰ってくるのか、いたずらをしたりしつつ帰ってくるのかってわからないので、そうやって地域の人が見てくれているとありがたいなと思いました。以上です。
橋本会長	ご報告いただきまして、ありがとうございます。議事録に載せちゃいますけど、よろしいですか……。
山田委員	見ていてくれて良かったです。
橋本会長	どうもありがとうございます。ほか、何かありますでしょうか。吉田さん、お願いします。
吉田委員	吉田です。6ページの小学生に対する事業の中ほどのところで、「親が児童館に来ることが減ってきています」という理由で、子どもが携帯電話を持ってくるようになったということが一つの理由であったということで、申しわけないですね、自分の子育て時代とは随分変わってきたなというふうにやっぱり思います。夕方は迎えに行き、初めて職員の方と話して、自分の子どもの様子を伺ったりとか、他の子の様子を聞いたりとか、他の子と一緒に帰ってあげるとか、そういうことをしてきたな、ということがちょっと思い出されて、時代の流れというのはこういうもの、これはこれで安心でしょうけど、というのがちょっと思いついた感想です。それと、貫井南に関しては、中・高校生が多いという数字は、これは夜間開館があるというのが理由ですか。
橋本会長	いかがですか。
事務局（山田）	「スペース@ヌクイ」の人数は20ページにあります。特に夜間開館の時間だけに多いというわけではなく、日常的に、学校が早く終わった日ですとか、そう

	<p>いった日も中学生はよく来て、バスケットボールをしたりして遊んでいることがあります。</p>
吉田委員	<p>ありがとうございます。例えば、不登校のお話とか、今伺ったんですけれども、そういう子というのは、小学校のうちからずっと児童館に通っていた子であったりしますか。あとは、大学生で来てくださっているというのに関しても、ずっと貫井南児童館にかかわっていて、自分が大きくなって、それでもかかわってきているという子ですか。</p> <p>不登校のお話も関係しますが、高校生になってもまだ来てくれているという子は、例えば小学校からずっと貫井南児童館に来ていた子で、高校になってもずっと来てくれている子どもということなんですか。</p>
事務局（山田）	<p>山田です。誤解を招いてしまって申しわけないのですが、文中の不登校のお子さんは今、小学生です。小さいときから遊びに来ているんですけど、まだ小学生という段階です。</p> <p>また、大学生で来てくれている子はいろいろです。中学生ぐらいからずっと来てくれている子もいますし、スタジオ利用の高校生バンドで使っていて、そのまま馴染んで来てくれているお子さんもいます。いろいろです。以上です。</p>
吉田委員	<p>ありがとうございました。</p>
橋本会長	<p>橋本です。関連して。高校生や大学生で手伝いに来てくれる方というのは、地域の大人の方や親御さんとは連携があるんですか。それとも、児童館の職員の方だけが接点なのか、大人同士の接点があるのか。つまり、彼らは、誰に認知されているのかということなんですけれども、児童館の職員の方が見てくださっているというか、相手にしてくださっているという理解でいいですか。それとも、地域の大人にも知られているとか、地域に溶け込んでいるとか、ちょっと質問の意図がはっきりしないもので、すみません。</p>
事務局（山田）	<p>高校生で来ている子は、親御さんとも私たちは結構面識があつて、よくお話をさせていただいて、助かっていますよというお話ができるような関係ではあるのですが、その子たちがこれだけ頑張っているというのを、中学生でしたらまだ、ボランティアのこきんちゃんカードとかがあったので、またそういう対応ができるのですけれども、それ以外で地域の方にそれをPR、というのは、ちょっとできないかなという段階です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。また何かありましたら、後から聞いてください。山田先生、ありがとうございました。</p> <p>8ページに行きまして、緑児童館のご説明を伺います。森先生、お願いします。</p>
事務局（森）	<p>緑児童館については、前回までの児童館運営審議会の中の議題というか、そこで話し合われた部分について、そこに特化した形で説明というか、話をさせていただければと思います。</p> <p>前回の運営審議会で、緑児童館は、昨年11月と12月に大きな改修工事を行って休館したということで、それについていろいろご意見、ご要望をいただいたわけですが、この休館中の2カ月間というのがほぼ小学生の利用がなかったということで、小学生の人数は結果的に3,000人減ったことになります。</p>

ただ、年間280日という開館日数の中の利用者数なので、毎年、これが多かったか少なかったかというのは、なかなかはっきりと分析できるものではないのですが、減った3,000人が、11月と12月開館していたら、ここが来たかどうかと言われるとちょっとわからないです。

単純に児童館に遊びに来る子どもたちだけではなくて、11月は市民まつりの子ども部門行事として、青少年健全育成北部地区委員会が、緑児童館内で子ども縁日を行うことが多いです。縁日を1回やれば、緑児童館には400人ぐらいの利用者が来ることになるので、それがなかったというだけでも減ったということなので、年間を通じて開館していたら26年度と27年度どうだったかというのはなかなか言えないわけです。

ただ、事実としてあるのは、1月から3月までの利用者、特に小学生だけ考えますと、休館があけた後、子どもたちが戻ってきたかということ、完全には戻ってきていないというのが実情です。

それについては「この1年のあゆみ」でも触れているのですが、児童館が休館している間、小学生は、たくましく居場所を見つけていたと思います。これについては、いろいろな方のお話と報告もあったのですが、ある家庭では自分の友達を大量に連れ帰ってきて遊ぶようになったとか、それから、近くの公民館の中で自分たちの居場所を見つけて、そこでみんなで輪になってゲームをやっていたとか、それから、地域の中にある公園で遊んでいたとか、あと、あまりはっきりしていないのですが、イトーヨーカドーあたりに行っていた子どももいたということ、いろいろな方たちから報告みたいな形で聞いていました。それが、12月中旬に児童館が開館になってから全員戻ってきたか、といたらそうではなくて、どちらかという、ゲームをやるなら児童館よりも緑センターのほうがやりやすい、というふうに思った子たちがいたかもしれません。

児童館の施設の特長性は、ゲームもできるし、カードもできるけど、みんなで走り回れもするということなので、そういった児童館が一番行動しやすいと思っている子たちだけが戻ってきたと我々は分析しています。よって、今までの通常の1月から3月に比べればちょっと減っていたのかなと思います。

その影響が今年度に入っても多少ありまして、昨年度一番多かった6年生が中学生になり、部活を始め、6年生とすごく仲がよかった今年の6年生も、自分たちがいつもつるんでいた1個上の先輩たちが中学生になったので、何となくその子たちに続くような形で児童館に来るのが減ってきた感じがあります。

今、緑児童館で天下をとっているのが3年生と4年生です。新年度になって、そういった形で小学生の利用者の構図というんですか、そういうのはちょっと変わってきているなと思います。ゲームを持ってきたりとか、カードを持ってきたりもしていますけれども、基本的にそれをずっとやっているような子たちというのは、児童館には来ないで、突然、卓球を始めてみたり、ボール遊びをやってみたり、学年関係なく、走り回ってみたり、という感じで賑やかに遊ぶ子どもたちが主流です。

人数的には去年の春から夏に比べれば、ちょっと減ったかなという気はするん

	<p>ですけど、職員が子どもたちを追い回すということを考えれば、それほど変わっていないなとか、いつもの日常が戻ってきているなというふうに感じております。小学生については、今までどおりの事業も行ってはいますが、自由来館の子どもたちに対しての関わりというのは重要、というふうに感じましたので、27年度は特に「この一年」の中に書かせていただきました。</p> <p>それと、大きな変化ですが、幼稚園の子どもたちの居場所というのが児童館になかなかないというのは、緑児童館だけではなく、東児童館でも「おいでよ！3・4・5・6」という行事をやっている理由にもなっています。緑児童館周辺でも幼稚園バスがとまり、本来だったらそのまま公園でちょっと遊んでいきたいんだけど、なかなかいろいろな問題があって遊びづらい。何となく児童館に流れてきてしまったというのが昨年度によく見られる光景でした。そういう状況に対して我々としても何かをするべきだということで、今年度から幼稚園児対象の行事を月に1回行っております。</p> <p>ただ、緑児童館周辺には幼稚園というのがなくて、基本的には中央線の南側か、もしくは他市になるんです。なので、PRの方法がすごく難しい。昨年、幼児グループに参加されていたお母さんたちを中心に口コミと、それから何人かの方々にバス停でビラを配ってもらうようにしました。内容は東児童館が主に遊び場の提供に対して、我々は工作だったり、今月は水合戦というふうにテーマを決めてやっています。</p> <p>結果、幼児グループOBを中心に利用も多く、一応15人ぐらいをめどにしていたんですけども、それを超える人数が毎回申し込みます。やっただけのはいはあったかなとは思っているんですけど、ただ、児童館ですので、その子どもたち、あるいはその保護者をこれからどういうふうにつなげていくかというのが課題になってきているので、そこにも力を入れていきたいと考えています。</p> <p>中・高校生に関しては、学校と連携するような事態は、そこまでないのですが、昨年、休館中に柵を乗り越えて入っていった中学生がいて、その子たちが部活帰りだったことと、「こらっ」と言ったら荷物を置いて逃げてしまったので、こちらも途方に暮れまして、しょうがないから学校にあって、部活の先生に相談して、学校のほうで子どもたちを集めてもらい、謝罪に来られたということが1回だけありました。それ以外は特に、基本的には児童館と子どもたちとの関係ですので、ささいなことは我々のほうで対応しています。小学生も同じで、校長先生との話で、お互い、施設での問題は施設で解決しましょうということでやっております。特に、ケース会議のような形で先生と子どものことでお話をするというのは、我々の中では経験がないとか、起きていない状況です。以上です。</p>
橋本会長	ありがとうございます。何かご質問ありますでしょうか。中川さん。
中川委員	中川です。1番のところ、幼児グループのOBの方たちがいらっしゃるといのは、イベントとしては週に1度とかなんですか、それとも毎日の午後を使っています。先ほど水遊びって言われていたので、そういう曜日が決まっているのでしょうか。
橋本会長	曜日が決まっているかということですね。

中川委員	その水遊びのイベントをやる。
事務局（森）	月1回の行事として行っております。
中川委員	月1回。曜日とかは関係……。
事務局（森）	木曜日です。他の事業や小学生との関係もあるので、小学生の一番帰りが遅いところで決めました。幼稚園世代の子どもですから、一部屋を使つての行事であっても走り回るので、小学生の子どもたちが多いたときにそれをやると、事故の可能性とか、いろいろありますので、今、一番いいのは木曜日ということです。
橋本会長	小学生が走り回るから、ですか。
事務局（森）	いや、お互いです。
橋本会長	幼児も。
事務局（森）	はい、どっちも、です。
橋本会長	どうぞ。山田さん。
山田委員	山田です。4年生以上の女子が、自由来館とか、多数参加したというのがあるんですけど、やっぱり男子が多い感じですか、全体的に、児童館的な感じで。
橋本会長	どうでしょうか。
事務局（森）	全体的に言えば男の子のほうが多いです。
山田委員	女子に向けたイベントをやるとかというのもなく、とりあえずどっちも。
事務局（森）	遊びに来るのは男の子が多く、行事に来るのは女の子が多いです。行事だと男の子は特に高学年になると集まらず、やっぱり自由に遊んでいたりしたほうが好きな女の子が多いんですけど、女の子は、趣味、嗜好の問題で、手芸だったりとか、料理だったりというふうに、わりとそういったことで集めやすい状況はあるんです。結果的にですけど、なぜ自由来館の女子が少ないかというのは、そこはまた一概には言えない部分があるのですが、遊びに来る子どもたちを見れば、圧倒的に男の子が多くて、行事については、女の子向けの行事が多いということもあって女の子が多いということです。
山田委員	ありがとうございます。
橋本会長	山田さん、心当たりか何か思われることがありますか、男女差、男女の利用差について。
山田委員	うちがよく行くのは貫井ですけど、やっぱり男子が多いなと思うので。
橋本会長	経験上、そう思われたと。
山田委員	見ていてです。
橋本会長	今まであまりそれを議論したことがなかったので、また気がついたことがあった方はご意見、感想、おっしゃってください。ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。お願いします。岩重さん。
岩重委員	岩重です。3番の中・高校生世代に対する事業のところで、「児童館は遊びに来るところよりも、大人の手伝いをしに戻ってくるところだと思っているのでは、と感じています」ということなんですけど、この間、東児童館の利用者懇談会に出たときも、中・高校生も遊びの利用者です、ボランティアだけではないということを言われていたので、うちの中学3年生の長男も、やはり同じように大人の手伝いをしに行く場所だと思っていたので、もうちょっと中・高校生も、遊

	びに行くというのも変なんですけど、居場所なんだよというのを周知させるというか、そういう工夫があるともっといいのかなと感じました。
橋本会長	ボランティアだけではない、遊びの利用者であるというふうに言われたと。
岩重委員	私、ああ、そうなんだって、そこで感じたので、うちの子どもなんかはボランティアにだけ参加するような感じで、部活なんか忙しいというのもあるんですけど、もっと遊びで利用できる場所なんだな、ということや、一部の子にしか認知されていないというか、そういう感じなのかなと思ひまして。
橋本会長	どうぞ。
事務局（森）	あくまで文章上の表現なので、捉え方はちょっとさまざまですが、緑児童館の特徴で、何を特徴として上げるかという中でこういう表現になったので、むしろ、人数だけならば逆に、ボランティアよりは遊びに来る中学生のほうが多いです。ただ、特色として、ということです。貫井南児童館とか東児童館よりは、元々の遊びに来る人数は少ないですけども、夏期クラブのような大きな、ボランティアが必要な事業になれば、ほかの児童館と同等またはそれ以上に来るので、緑児童館の特色としてはこういうふうに見えるという意味です。 周知は、広報については全部4館共通でやっていますし、児童館が中学生も遊びに来られる、というのはおそらく知っていると思われまふ。ただ、児童館に来るかどうかという判断は、それは個々人の判断なので。
橋本会長	よろしいですか。新井さん。
新井委員	新井です。今、森先生がおっしゃったように、子どもというのは、遊びの中でも、そこで何か自分のちょっと特技というか特徴を持って、これだったらちょっと手伝えるよ、というのがあって、その自主性みたいなものを育てるといふのは、いいことだと思います。ただ、遊べばいい、というものではないな、という感じがしているので、今の話の中では、僕はこれができるよ、私はこんなのできるよ、ということで、小さい子を指導するとか、そういうことをぜひ進めていってほしい、と思います。そうすると結局、グループがうまくまとまることになるので。ただ遊ぶだけではない、というふうに子どもたちを指導していただければ、それはとてもいいことじゃないかなと思います。その辺はよろしくお願ひしたいと思います。
橋本会長	今のは、緑児童館に対するご意見ですか、全体へのご意見ですか。
新井委員	いや、今、森先生がおっしゃったことについて、全体への意見という感じでね。子どもはボランティアのためだけに来るといふんじゃないだろうと思ふんです。遊びだけど、僕はこれができるよ、というのをやっければ、それが一番いいと思いますね。
橋本会長	岩重さん。
岩重委員	今の話の流れですけど、私も家で子どもに、どこまでだったらボランティアなのという話を一緒にしたときに、この間、東児童館の懇談会では、幼児グループのお母様方が誕生日カードを作製されているということで、それを見せていただいたんですけども、それに使う画用紙を切り張りして、何かこういうケーキのようなものを張ったりするので、例えば、工作が得意な子とか、絵が得意な子は、

	<p>そういうものをちょっと手伝って、素材として、これ、使ってくださいみたいに時間があるときにやるのは、ボランティアなの、それとも遊びに行った段階でやっているのと言ったら、うちの子はそういうことが好きなので、遊びの中で何か役に立って、そういうのは何か言ってもらえたりすると手伝いたいとか、そういう話があったので、そういうようなところでもうちょっと中高生を、利用するというとちょっと変なんですけど、役割とか、そういうものを与えてもらえると、認めてあげるといところがすごくいいのかなと感じています。</p>
橋本会長	<p>つまり、遊びの一環ではあるんだけど、役割を持って参加できることは中・高校生にはとてもうれしいことであるということだろうと思います。私もそう思いますし、今、新井委員もそのようにおっしゃいました。それはとても難しいことではあると思いますが、先生方もそうしてくださっているんだろうというふうに拝見しています。うなずいていただいています、そうですね。ほかに何かありますでしょうか。</p> <p>それでは、今、一通り各館の様子については説明とご意見をいただきました。そのほかのことについて、何かご発言があれば。4館共通のことでも結構です。中川さん、お願いします。</p>
中川委員	<p>中川です。今、この4館共通の内容を見て、ちょっと目にしたのは「不登校」という言葉がすごく多いなと感じたんですけれども、学校には行けないけど、児童館には行けるとい子どもたちが増えているのでしょうか。以前にもあったことなのかな、どうなのかな、と思ったんです。</p> <p>学校では活動できないけど、児童館にいるときはちょっと自分を出せるというか、そういう形で出せるのであれば、その児童館の先生たちにフォローしていただく、あと、学校の先生たちと連携していろいろと考えていただけるという形で、今もそういう形をとって、されているのかなと思うんですけど。</p>
橋本会長	<p>大事な問題だと思います。先生方、最近の様子、昔からそうなのか、ということですけども……。</p>
事務局（森）	<p>代表してお答えします。不登校の子どもたちとの関係は、児童館が開館して以降、50年間あったというふうに考えていただければよいと思います。必ずしも、不登校になった子が児童館に来るかどうかというのは、それはわかりません。</p> <p>市内の学校で何人不登校の子がいるというのを我々はデータとしていただいておりますし、その辺の調査もやっておりません。ただ、児童館の中に、そういったちょっと問題を抱えた子たちが、朝から来て児童館で過ごし、午後になって帰る子もいれば、その場で普通に、学校に行っている子どもたちと一緒に遊ぶケースもあります。不登校だけではなくて、家庭内の問題とか、そういうことも抱えた状態で児童館とかかわっていく子たちも過去にはおりました。</p>
橋本会長	<p>ずっと潜在的にも、顕在的にもあったことだということですね。</p> <p>中川委員、どうぞ。</p>
中川委員	<p>中川です。そうすると、時代的にも少しずつ形を変えてというか、児童館というの、そういう場の一つというか、学校に行けない子たちのそういうフォロー的な場所じゃないですけど、何かそういうところが重要になっていくのかな、と</p>

	も思うんですけど。
橋本会長	橋本です。確かに、そういう面もあるだろうなとも思えますけれども、一面、難しいのは、学校に連絡するのがいいのか悪いのか、という場合もありますし、いろいろな人間同士の相性もありますし、知られたくないところで活動したいという思いを児童館の先生たちが酌まれる場合もあるかもしれませんし、逆に、学校と連絡をとった方がよい場合もあるかも知れません。ケース・バイ・ケースということで、結局は、児童館の先生方の専門的な判断に任される形で学校や保護者や地域との連絡はなされているんだろうと思います。なので、あまり形式的に整えて連絡体制をきちんとしようということにしてしまうと、先生方も縛られちゃうのかなという気もいたしますし、難しいところかなと思いますけど、何かいい知恵があれば出し合いたいなどは思いますが。山中先生、いかがでしょうか。
山中委員	各児童館の方々が、例えばこの子は不登校かどうかって、最初わからないわけですよ。要するに、午前中に来たら、なぜ学校へ行かないんだろうと、そこから始まると思います。 そうしたら、そこでまず小学校とか中学校に電話を入れて、今、実はこうなんですよということで、その情報が児童館にも伝わって、ということが多いのでしょうか。最初から「僕、不登校だから来ました」っていう子、そういう子ってなかなかいないんじゃないかと思うんです。 または、どうして今ごろ、学校に行かないで児童館に来たのって質問してわかった、という感じになりますか。
橋本会長	では、森先生。
事務局（森）	ほとんどは本人の口から聞きます。今の状況は、本人の口から出ます。
山中委員	本人に聞いてわかるわけですね。
事務局（森）	はい。なぜ不登校なのかというのを、学校の先生たちと情報交換、お聞きする場合もありますし、ただ、児童館としては基本的に家庭との関係なので、やはりお父さん、お母さんとの連絡というのをまず行います。ただ、いろいろ難しいケース、日中いらっしゃらないとかもあります。 それと、考え方が学校の先生方とちょっと違っているかもしれないんですが、学校に行っていないということ自体よりも、その裏にある部分ですね、そちらのほうが気になるので、単純に学校へ行っていないということだけで問題視するというのは、していません。 むしろ、それよりも、何で行けていないかのほうが重要で、ちょっとしたサボり癖で休んでいる子もいれば、人間関係とか大きな問題を抱えた上で学校に行けない、あるいは学校の友達とつき合えないと、様々です。そういうことのほうがやっぱり大きな問題だと思います。そういう子どもたちと上手に関係を作っていくことが大事です。 ただ、きっかけとしては、本人との会話の中から、子どもから言ってくるということが多いです。
山中委員	学校でも、例えば不登校の子どもたちの状況確認って常にしているわけです。今、ああ、児童館に行っているんだということがわかるだけでも、学校としては

	<p>子どもたちの様子が見えてくるんです。</p> <p>無理して学校に来させようとか、今はそういう時代じゃないので、子どもたちの居場所として、児童館も必要かもしれないし、もくせい教室もあるかもしれないし、またはサポート教室もあるかもしれないと、いろいろな場所があつていいと思っています。</p> <p>その中で不登校の情報を、学校としては在籍している子どもたちの安否確認もありますので、そういう意味で、もし教えてもらえるものがあれば、ああ、そうか、今、行っているんだなということで、担任としても今度、そっちを見に行ってみようかということが出来るかもしれないし、いろいろな情報を学校に教えてもらえればいいのか、とかはちょっとあります。</p>
橋本会長	ありがとうございます。新井さん、いかがでしょうか。
新井委員	<p>私も、第二小学校だとか第一中学校でそういう話を聞きますが、そんなに不登校がたくさんいるというわけじゃないけれど、先生たちも不登校の子たちの日常の行動というのはかなり押さえて、見ていらっしゃいますよね。</p> <p>もくせい教室へ行っているとか、児童館に行っているみたいですよということで、先生たちの話を聞くと、児童館に来ているんだつたら安心して、見守ってくれているということでものすごく安心していらっしゃるみたいですから、その辺は学校の先生と連携をとれるようにしておいていただいたほうがいいかなというふうに思います。</p> <p>先生もそういう形で、安心したいんです。</p>
山中委員	一番怖いのは、ひきこもりになっていったらどうしようか、ということです。外に出ている、というのは、やっぱり安心感はあるんですよ。
新井委員	学校には行けないけど、そういうところで小さい子と一緒に遊ぶというのは、それはまたそれでその子の特性ですものね。いいと思いますね。
橋本会長	いかがですか。中川さん。
中川委員	児童館の先生というのは、学校の先生とは違って、すごく話しやすいとか、すごく居心地がいいという場所なので、やっぱりそういう場所というのはとても大事だと思います。
橋本会長	ありがとうございます。山田さん、何かありますか。いいですか。
山田委員	山田です。もしも、うちの子が不登校になったら、児童館へ行っておいでって言っちゃっていいのかなって。どうなんでしょうか、児童館的には。
橋本会長	よろしいじゃないですか。
山田委員	いいですか。じゃ、そうします。
橋本会長	親御さんのご判断で、いかようにでも。
新井委員	お子さんが、じゃ、ちょっと僕、児童館へ行ってくるよ。それでいいんじゃないですか。
山田委員	外に出れるなら。そういう使い方もあるんだなって思いました。
橋本会長	ありがとうございました。今、委員のほうから意見が出まして、そういうことがいろいろな意見がありますので、そういうことも伺えてよかったなと思います。それを踏まえて、また児童館の先生方でも、ああいうふうに言っていた委員

	<p>がいたなということを出していただき、その場その場の判断をしていただければいいのかなというふうに思っております。</p> <p>布目さん、何かありますでしょうか……。</p>
布目委員	<p>布目です。児童館というと、私、ちょうど子どもがその年代だったころというのは、やっぱり赤ちゃんとか、小学生ぐらいまでのお子さんを対象にしているところというイメージがあったんですけども、中学生、高校生になって、学校には行けないけれども、どうも児童館には現れているようだという話をもう10年ぐらい前に伺ったことがあったので、そういう使い方というか、学校には行けないけれども、小学校のときからそこに来ていて、児童館の先生とちょっと話をして、話をすることでまた家へ帰れるとか、しばらくいて気持ちが落ちついて、学校には行けないけれども、自分が行ける場所があるということを確認しているのかなというところだと思いました。</p> <p>今、ここでこういうふうにお話が出ていて、児童館も、中学生、高校生、さらには元OBの大学生まで、地域にあって、子どもたちの受け皿という居場所として、年代を問わず誰でも来ていいんだ、という場所になったということは、この50年間の成果が大きく実って、いろいろな状況のお子さんを受け入れて、みんな大事な子どもたちだよということを、本人も周りの人も改めて意識できる場所なのかなというふうに今回すごく思ったので、児童館って、いいところだなというふうに改めて思いました。以上です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。今、布目委員が言ってくくださったことは、よく言われる縦の目線、親と子ども、先生と生徒という縦の関係だけじゃなくて、斜めの目線とか、斜めの関係についておっしゃっておられたのかなと伺っていました。</p> <p>そのほか何かありますでしょうか。中川さん。</p>
中川委員	<p>中川です。本町児童館の話なのですが、私の子どもが本町児童館に通っているのので、前回からちょっと気になっていました学童保育所のことで、今年度は本町小に学童保育が一部入ったので、児童館もすごく使いやすくなって、トラブルとかも減ったというご報告、これはお母様の声だとか子どもたちの声でもありました。1年間だけ、本町小を使って学童は設置される、ということだったんですけど、来年、元に戻るといえることはないですね。ほんちよう学童保育所の場所はもう決まっていらっしゃるのかなと思って。元に戻したらすごい人数なので、受け入れられる範囲も超えてしまうと思うんですよ。そういうところがちょっと気になりました。</p>
橋本会長	<p>児童館利用者の立場に立ったら、どうなるのかということですね。</p>
中川委員	<p>そうです。今が児童館にとってベストな状態になっているのが、もし来年戻ってこられたら、全然入らないと思うので、どういう状況なのかなと気になりました。</p>
橋本会長	<p>来年度はどういう状況になりそうなのか。伏見課長。</p>
事務局（伏見）	<p>ほんちよう学童については、現時点でお答えできるものは何も持ってございません。今、中川委員がおっしゃられたとおり、今年度末まで、本町小学校をお借りできる約束はできております。では、その先はどうなるんだ、ということでの</p>

	<p>ご質問かと思いますが、先ほどお答えしたとおり、現時点でお話しできるものはありません。戻ってくるかどうかについても現時点でお話しできるところはないということでご理解いただきたいと思います。</p>
橋本会長	<p>ちょっと努力中、というふうに受けとめるわけですがけれども、どうでしょうか。はい、関さん。</p>
関委員	<p>きのう、前原小の放課後子ども教室の見学をしたのですが、放課後子ども教室の校庭遊びの見学で、そこで安全管理の方が言うには、50人、放課後子ども教室の子どもたちが集まっているときに、さらに110人の学童が入って、トラブルというか大変なことになる、という話でした。</p> <p>110人の学童が入っていったときには学童の指導員の先生も入っていて、放課後子ども教室のほうも四、五人の大人がいるのですが、それでも混乱状態になるということなので、校庭でさえ混乱状態なのに、児童館に戻ってきたときに、やはり相当大変なことになると思いますので、今のような状態の人数で何とかして欲しいなと思いました。</p>
山田委員	<p>山田です。もし戻ったら、この学童の部屋に何人ぐらいになるんですか。</p>
事務局（伏見）	<p>現時点で、ほんちょう学童については全部で88人ぐらい、というところだったんですが、今年は、さっきおっしゃっていただいたとおり一部本町小学校を使っていますので、大体60人、30人ぐらいで分かれている状況になっています。ですから、ここは60人ぐらいで使っています。</p> <p>また、戻るかどうかについては、先ほどお話ししたとおりなので、現時点でお答えできないので、申しわけございませんが、仮にここに80人、90人近く入るのか、については、もしそういうことになれば一定の対応を考えなければいけない、というふうに考えております。</p>
橋本会長	<p>戻ってきたら大変な混乱になる、ということは委員も心配していて、行政側でもそうならないように手を尽くされているものと我々は推量しますが、ぜひ何とかうまく解決をしていただきたいと思いますというふうに、委員の皆さんもうなずいていますので、審議会としての要望であると受けとめていただければと思います。</p>
新井委員	<p>新井です。今のお話は、児童館というよりも学童の問題ですよ。ここに90人入れるわけがない、という意味で、です。ある程度、面積は決まっているんじゃないですか。それはもう学童の問題として解決していただかないと仕方のないことじゃないかと思います。</p>
橋本会長	<p>我々は児童館利用者の立場から今のようなお願いをしている、ということだと思います。ほかに何かありますでしょうか。関さん、どうぞ。</p>
関委員	<p>本町児童館の利用者が少なくなったというようなことを聞いたので、学童のほうに逆に増えていって、待機している人数もあると新聞では読んだのですが、学童の申し込み受け付けをするときに児童館の案内というのはされないのでしょうか。されたほうがよろしいかと思うのですがけれども。</p>
橋本会長	<p>ご質問の前提となっている、利用が減っているのかということについては、多分、事務局や先生方のご説明の中では、学童ひろば事業を学童保育所のほうでやるようになり、乳幼児の一部がそちらに行ってくれるから、その分の児童館利用</p>

	者が少なくなったのでは、というふうにお話しではなかったですか。一般的に減っていますか。
関委員	児童館の方が、まだ余裕があるのかなと思って。
橋本会長	余裕があるなら、もっと案内をすればどうだということですね。
関委員	学童の受付の人が、児童館もありますよというような案内をしたら、という意見です。
橋本会長	児童館でも補えるニーズがあれば、ということですか。ほかに何か。中川さん。
中川委員	今、児童館の案内という話で、新1年生に向けて児童館の紹介というのを、この4月の本町小学校の入学式の後、そのまま残っていただいた保護者の方に、大嶋先生から説明していただいたのですが。その結果として、大嶋先生、どうでしたでしょうか。
橋本会長	むしろ、ほかの児童館でも、そういうふうに小学校の入学式なんかで連携して宣伝していったらいかがかどうか、それも併せて伺ってよろしいですか。
中川委員	はい、お願いします。
橋本会長	手短なお答えで結構ですので。大嶋先生。
事務局（大嶋）	本町児童館、大嶋です。学校とPTAの方にご配慮いただいて、本町小学校で入学式の後、PTAの説明に入るまでの少しの時間をいただいて、1年生の保護者の方に、児童館の利用方法について紹介させていただきました。1年生の登録数とか、グループの申し込み数、一般の自由来館児の1年生の子どもの数が、4月当初から認知されたせいか、4月の出だしから増えてきたので、ご紹介させていただいてよかったと思っています。以上です。
橋本会長	ありがとうございます。ちなみに、ほかの児童館では、そういうふうな小学校でご案内されたことはありますか。
事務局（森）	<p>前回の中川委員のご提案を受けて、その際もお答えしていると思うのですが、入学式の前後で小学校の全児童一人一人に児童館のたよりを配布しています。今年度の1年生が多いか少ないか、というのについては、緑児童館で言えば、今年度に関しては、行事、あるいは小学生のグループの申込みは、例年になく多かったです。</p> <p>これ以上のことをするかどうかというのは、それぞれの小学校との関係もあるので、一概には言えないのですが、本町児童館に関しても、本町小学校だけではなくて第二小学校や第四小学校からの利用者もいますので、そこも含めて、PRの効果をどのように考えていくか、というのもあります。</p> <p>一番効果的なのは、お子さん、またはご家庭に児童館のたより等のチラシを配布することだと考えておりますので、市内全域で行なっているので、一定の成果があるのではないかなというふうに思います。</p>
橋本会長	わかりました。では、今、情報交換、意見交換をさせていただいたということに……。ほかに何かありますか。吉田委員。
吉田委員	先ほどのお話の中で、学校に行けない中学生が児童館に立ち寄っていることが、ほかの児童館もあるということだったんですけれども、いきなり中学生になって、知らない児童館に足を踏み入れるということはなかなかないと思うので、

	<p>そこは小学生のうちにどれだけその児童館に通っていて、そして、その職員の人たちと心を通わせていって、だからこそ、中学になって悩み苦しんだときに、きっと児童館を訪れているんだろうなというふうに、私はちょっと今、状況を見ていてそういうふうに思っています。</p> <p>おそらく、中・高校生の居場所、もしくは幼児の居場所としても、もちろん児童館は必要なんですけれども、小学生に対する受け皿の部分というのを強化していくことが、次につながるんじゃないかなとすごく思っています。児童館があるから子どもが行くというの、やっぱりその児童館の職員の方々との関係なのかなというふうにすごく思っています。</p>
橋本会長	吉田さんの観察からそういうふうに見ておられるということですね。
吉田委員	はい。私が見ている限りはそうかなと……。
橋本会長	ほかの皆さん、いかがでしょうか。うなずいておられる方もおられたようですが、大体そういうようなことだと思うんですね。わかりました。ありがとうございます。では、ほかに何かありますでしょうか。それでは、今日はとりとめもなく、いろいろなことをご指摘いただいたようなことになりまして、あまり審議が深まるという会ではなかったかなとも思いますが、次回の予定はどうなっていましたか。
事務局（田中）	次回は秋口、11月を予定してございます。日程は、また改めてご連絡をさせていただきます。
橋本会長	その次はまた、2月または3月ぐらいに第3回がありまして、このチームの任期というか、2年間1期のお務めが終わることになります。次はどちらの児童館になりますか。
事務局（田中）	順番でいきますと、見学が残っているのが貫井南児童館だけになります。ただ公民館の会議室を行政利用する形になる関係で、確実に11月の回で実施できるかどうかというのは不明ですので、状況によって市役所庁舎内で実施し、また次の回、3月に貫井南児童館、となる可能性もございます。
橋本会長	<p>貫井南もとても特徴がある児童館ですけれども、ぜひ訪問して、しっかり見ていただければと思います。</p> <p>では、以上で本日の内容は消化できたと思いますので、今日の審議会はこれで閉じさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。傍聴の方もどうもありがとうございました。</p>